

長寿命化改修により 新しい時代の学びを支える学習空間を実現

菅生小学校（神奈川県川崎市）

本事例のキーワード

長寿命化改修

図書スペース

柔軟な学習空間

脱炭素

木質化

トイレの快適化



事例のポイント

目標耐用年数を80年と設定し、建物の機能や性能を引き上げる長寿命化改修を実施。改修前の校舎が抱えていた様々な課題を解消し、新しい時代の学びを支える学習空間を実現。

事例概要

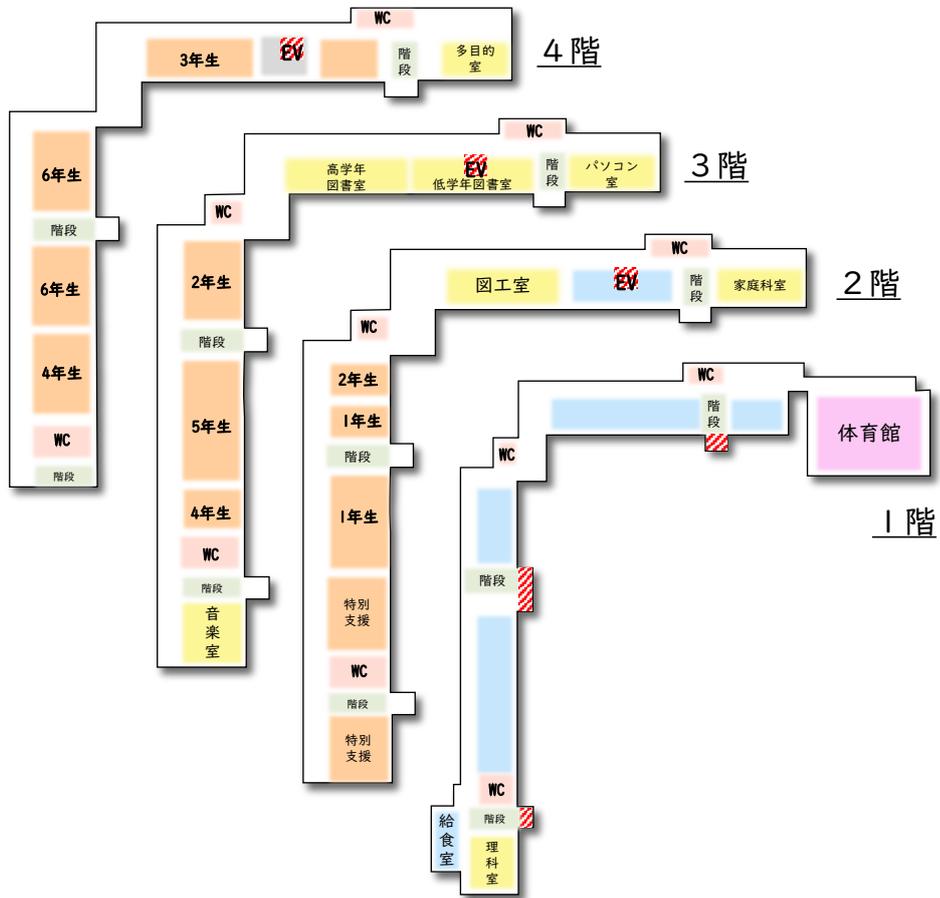
川崎市では、保有する学校施設のうち、築年数が20年以上の施設が全体の約7割を占めており、老朽化への対応が課題となっていた。老朽化したストックを多く抱える中、厳しい財政状況においては、改築需要を抑制する必要がある。また、新学習指導要領等に基づく多様な学習内容や形態に対応した高機能かつ多機能な施設環境の整備に加え、防災対策、バリアフリー化、普通教室やトイレ等の子供たちの学習・生活空間の快適化、環境負荷の低減等のさまざまな配慮が学校施設には求められていた。

このような背景から、川崎市では「学校施設長期保全計画」を策定し、その中で学校施設の目標耐用年数を80年と設定。内外装改修や設備改修等の老朽化対策、教育環境の質的向上、環境対策を行う改修を一体的に行う再生整備を進める方針が決定された。

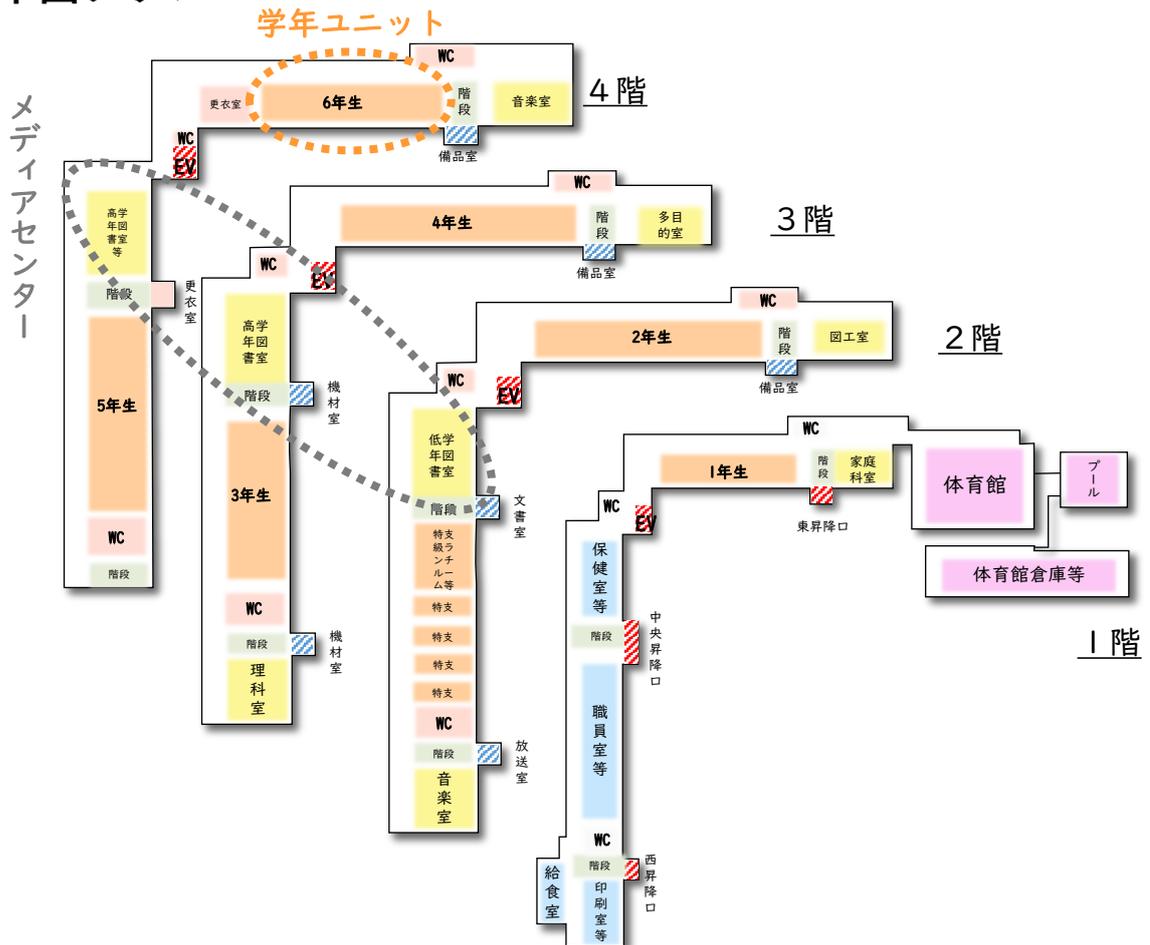
菅生小学校においては、上記計画に基づき、耐用年数80年を目指した再生整備が行われた。具体的には、老朽化対策、環境対策に加えて、校舎中央部へのメディアセンターの設置、収納や掲示のスペースを拡充する等の普通教室周りの環境整備、内装の木質化、トイレの快適化等が実施された。このような整備により、改修前の校舎が抱えていた様々な課題を解消し、多様な学習活動を展開できる学習空間が実現されている。



改修前 平面プラン



改修後 平面プラン



事例ポイント 1

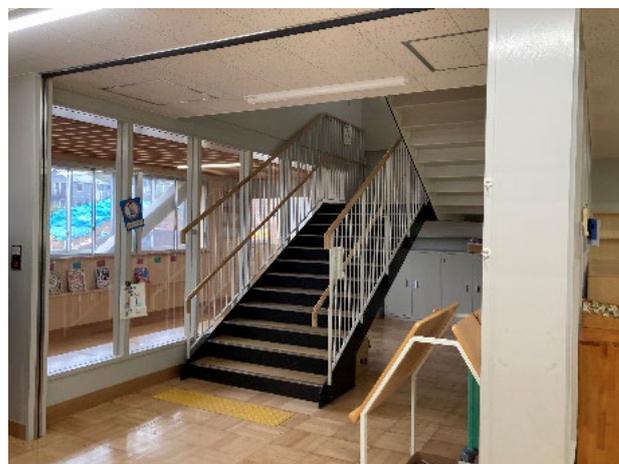
弾力的な運営を可能とするスペースの再配置

改修前の校舎では、同じ学年の教室が異なる階に配置されており学年のまとまりが取りにくい、図書室とパソコン室が離れていることから調べ学習で同時利用しにくい、利用する時間数や使用頻度の高い学年と特別教室が離れていることで移動動線が長くなっているなどの様々な課題を抱えていた。今回の改修では、スペースを再配置することによりこれらの課題を解消し、学校全体が運営しやすいよう改善が図られている。

例えば、EV棟を校舎の中央に移して増築し、EVがあったスペースを活用して4クラスを基本とした学年ユニットが構築されている。また、どの学年からも利用しやすいように校舎の中央部分にメディアセンターとして図書室とパソコン室をまとめて再配置するとともに、メディアセンターの上下階をつなぐ階段を新たに設け、上下階を行き来しながらパソコンと図書をより一体的に活用できるように計画されている。その他、靴を脱いでリラックスして本に触れられるように低学年用の図書室には小上がり空間を整備したり、メディアセンターの廊下側には、展示した本が見えるよう、オープンな展示スペースを設ける等、子供たちが気軽に本を楽しめる場所となるように様々な工夫がされている。



メディアセンターの低学年図書室
(靴を脱いでリラックスして読書ができる)



メディアセンターの上下階をつなぐ階段



メディアセンター
(展示書架)



メディアセンター前の様子
(外側からも展示された本が見える)

事例ポイント 2

多様な学習活動を展開できる教室空間とするための環境整備

基本計画では、教職員とのワークショップで教室として重要な展示・掲示・収納の機能について検証を行った。検証を踏まえて教室の設えについて議論し、背面ロッカーは横長とし、ランドセルとその他の教材が重ならず収納できるつくりとした。ロッカーの上部は天井までを掲示面とし、広い掲示スペースを確保した。また、教室正面の黒板下や廊下側、窓下にも新たに収納棚を設け、収納量を増やした。

また、多様な学習活動に柔軟に対応できるように、廊下側間仕切り壁は中央の3分の2がオープンに開放でき、廊下も教室の延長として学習空間として活用できるように改修した。

その他、教室正面の黒板の上には、プロジェクターを設置し、ICT環境の整備にも取り組んだ。



普通教室のオープン化



普通教室・教室周りの機能向上
(掲示板付きの間仕切り)

事例ポイント 3

健やかな学習・生活空間を実現する

学校は子供たちが1日の大半を過ごす学習・生活の場であり、子供たちの居場所となる温かみのある空間づくりをすることが大切である。また、衛生環境改善の視点や生活スタイルの変化等を踏まえ、トイレの洋式化・乾式化などの取組も求められる。

菅生小学校では、階段や廊下などの床を全てフローリングとし、腰壁にも木材を利用。来客用玄関には内装の木質化に加えて木製の家具を置く等、木材を積極的に活用することにより、温かみのある健やかな学習・生活空間としている。

また、狭かったトイレは、男女別に階を分けて設置。床を乾式化し、中央にアイランド型の手洗い器を設けるとともに、壁は明るい色彩に改修。子供たちが楽しく快適に過ごせる空間を実現した。



木の温かみを感じられる内部空間



トイレの快適化

学校概要

菅生小学校
神奈川県川崎市

全体工期：平成29年7月～平成31年12月

学校規模：29（5）学級、752人 ※括弧内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：12,524㎡

保有面積：校舎 6,336㎡ / 屋体 605㎡

構造：校舎 RC造S造4階建 / 屋体 S造2階建

※令和5年5月